

指静脈認証管理システムの導入で、業務端末での個人認証をスピーディかつセキュアに実現

HITACHI
Inspire the Next

東京都荒川区様

税務 / 介護 / 福祉
業務端末150台で
職員約550人が利用

1 端末利用者を個人単位で特定し、ログに記録。
不正アクセスを抑止し
職員のセキュリティ意識も向上

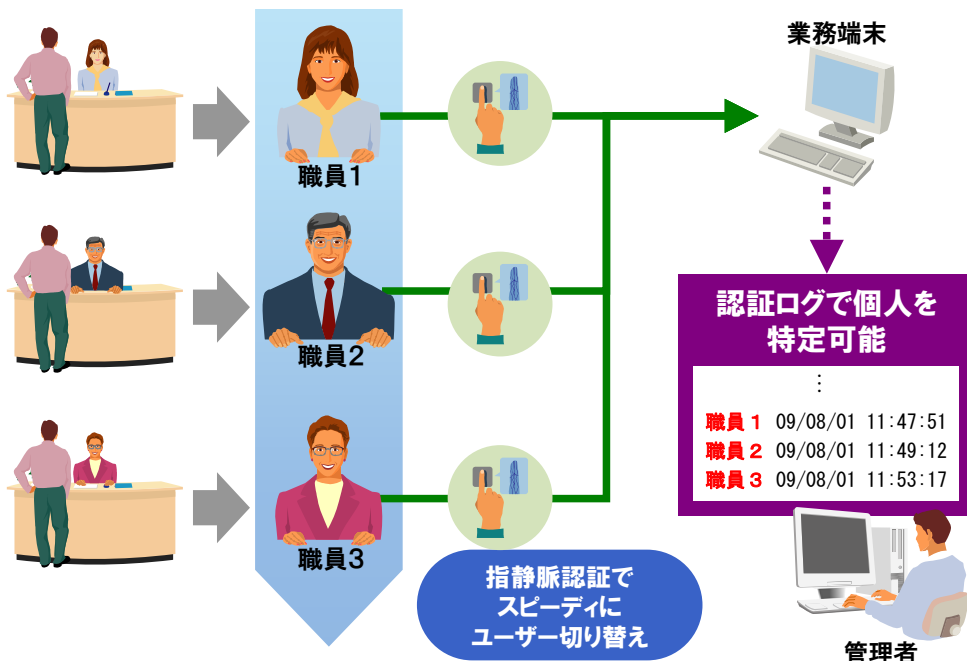
2 指を装置に置くだけの簡単操作で認証可能。
ID・パスワードの入力不要で
スピーディにユーザー切り替え

3 異動や組織変更もサーバー側の設定で柔軟に対応。
ICカードに比べシンプルな管理
運用負担も最小化



■荒川区 業務端末でのユーザー切り替え操作(イメージ)

荒川区では、複数の職員が利用する業務端末に指静脈認証管理システムを導入。頻繁なユーザーの切り替えが発生しても業務に支障を及ぼさないよう、課の共用アカウントと指静脈を組み合わせた「1:N認証(*)」を採用しました。スピーディなユーザー切り替えと個人を特定できるセキュアなログの取得を同時に実現しています。



* ユーザIDを入力することなく、指静脈データの照合だけで本人を特定する認証方式。

お客様プロフィール



荒川区 管理部
情報システム課
山本 洋平氏



荒川区 管理部
情報システム課
福地 巧氏

東京都荒川区

住所 東京都荒川区荒川二丁目2番3号

区長 西川太一郎

職員総数 1,600人
(非常勤・アルバイト等を含まない/
2009年4月1日現在)

人口 202,348人
(外国人含む/2009年6月1日現在)

世帯数 93,810世帯
(外国人含む/2009年6月1日現在)

URL <http://www.city.arakawa.tokyo.jp/>



お客様へのインタビューを
裏面に掲載しています ▶▶



2008年度「e都市ランキング(*)」で堂々1位に輝いた東京都荒川区。さらなる安心・安全な業務環境の整備を図る同区では、2009年2月より住記／税／介護／福祉システムなどの個人認証に日立の指静脈認証管理システムを導入しました。採用の背景や使い勝手についてお聞きします。

「不正アクセスやなりすましを防止するには、生体認証がベストではないか」という結論に達したのです」

—2009年2月から本格稼働している新システムですが、どのような背景で指静脈認証を採用されたのでしょうか。

「荒川区では、住民記録や税務といった基幹系、福祉や国保、介護といった業務系のシステムを、各部署に配置された共用端末から利用しています。従来、基幹系では係単位の磁気カード、業務系ではシステムごとのID/パスワードで端末にログインしていたのですが、個人単位での認証がとれず、正確なアクセスログの管理が難しいという課題がありました。そこで、不正アクセスやなりすましを防止する個人認証システムの導入を検討したのです。

ICカードを利用した認証も考えましたが、なりすましや置き忘れによる不正利用の恐れがありました。そこで、個人を確実に特定できる生体認証がベストではないかという結論に達し、2007年9月から新システムの選定作業に入りました」(山本氏)



新システム導入に携わった
管理部 情報システム課のみなさん

「操作性、スピード感、省スペース性など、幅広いポイントで指静脈認証の優位性が確認できました」

—「指紋」「手のひら静脈」「指静脈」の3システムについて、ベンダーからデモ機を借りて実際に検証されたそうですね。

「主管課の職員30人にも参加してもらい、『セキュリティ性』『操作性』『情報管理のしやすさ』『コスト』の観点で比較した結果、最終的に最も高い評価点を獲得したのが、日立の指静脈認証管理システムでした。実際に試してみると、指を置くだけという簡単な操作性と、認証までのスピード感、認証装置そのものの置き場所が非常に少なく済むという省スペース性など、幅広いポイントで指静脈認証の優位性が確認できたのです」(山本氏)

—生体情報を扱うシステムということで、職員の方から不安の声などは上がりませんでしたか。

「導入にあたり、事前に職員や職員組合への説明会を実施しました。生体認証の仕組みと安全性をきちんと理解してもらったことで、予想以上にスムーズに導入を図れました」(山本氏)

* 日経BP社主催。全国1481自治体について、アンケート結果から情報化の進展度を評価したランキング。

「指を装置に置くだけであっという間に認証が終わるため、ストレスはほとんどありません」

—住民情報系システムの業務端末150台に指静脈認証装置を導入し、約550人の職員が利用されているとお聞きしました。システムの使い勝手や反応速度は、ご満足のいく内容でしたか。

「部署によっては1日約20～30人の職員が、入れ替わり同じ端末を使うのですが、IDやパスワードが不要で、指を装置に置くだけであっという間に認証が終わるため、ユーザー切り替えのストレスはほとんどありません。また、朝一斉にシステムを立ち上げても指静脈認証にともなうレスポンス低下はほとんどないですね」(福地氏)

—「課のアカウント」と「個人の指静脈認証」でログインする「1:N認証」を採用されたとういしました。

「はい。窓口端末で個人ごとのアカウントを利用すると、ユーザーを切り替える度にWindowsに再ログインする必要があり、非常に時間がかかってしまいます。そこで日立さんと検討し、スクリーンロックの解除時に使用した指静脈認証情報をログに残すことで、再ログインしなくても使用者を特定できる「1:N認証」を採用しました。業務システムのログとひも付けると、単にユーザーが切り替わった時間だけでなく、作業内容までトレース可能です」(福地氏)

—そのほかに嬉しいポイントはありましたか。

「指静脈認証管理システムの導入によって、指静脈データの登録者以外は業務端末を操作できなくなり、セキュリティ性が大幅に向上しました。また、係単位でしか記録できなかったアクセスログが個人単位となったため、業務目的外でシステムを操作したり、内部の個人情報を漏えいしたりといった不正行為に対する、大きな抑止力になっています。

さらに、職員の異動が発生しても、管理用アプリケーションから設定を変えるだけで済み、指静脈データを登録し直す必要もありません。ICカードなどに比べてユーザー情報を管理しやすく、運用負担が最小化できる点がうれしいですね」(山本氏)

「マシン室への入退室管理なども、指静脈認証への転換を進めていきたいですね」

—今後の展望についてお聞かせください。

「他の認証方法を採用している業務システムについても、主管課からの要請に応じて指静脈認証を適用する用意があります。また、マシン室への入退室管理なども、他の生体認証から指静脈認証への転換を進めていきたいですね」(山本氏)

業務システムのセキュリティ強化と業務効率の向上をともに実現し、エンドユーザーとシステム管理者双方に大きな安心感と利便性をもたらす日立の指静脈認証管理システム。これからも日立は、同システムの機能強化とソリューションの拡充により、荒川区が実践する先進的で高品質な住民サービスを支え続けていきます。

お問い合わせ先

(株)日立製作所 公共システム営業統括本部

E-mail : p-channel@ml.itg.hitachi.co.jp

*本資料で紹介しておりますソリューションについてのお問い合わせは上記にて承っております。掲載団体への直接のお問い合わせはご遠慮願います。

製品情報

指静脈認証ソリューション

<http://www.hitachi.co.jp/veinid/>